

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 八頭高等学校

重点項目	大学進学	提出日	令和 4年 4月 5日
------	------	-----	-------------

1 学校目標	
<p>1. 授業に集中 ①高校生活や授業におけるルールやマナーの徹底 ②生徒の自宅学習時間の確保 ③AL9の視点による公開授業等の実施</p> <p>2. 行事で団結・部活は熱中 ①地域から信頼される学校づくり ②生徒の悩みへの的確な対応 ③学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営</p> <p>3. 進路に挑戦 《探究》地元大学との積極的な連携、高い志望に挑戦 《総合》多様な進路に対応、第一志望を目指す 《体育》全国を目指す、基礎学力を確実に育成 ①進路実現に向けて努力している生徒の割合の増加 ②国公立大合格者数の増加</p> <p>4. 学校業務改善の取組を進め、生徒への学習・生活・進路指導等の充実を図る</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>地域に根ざした学校としての八頭高校の魅力化、特色づくりのため、国公立大学等を中心とした大学進学に対応した教育課程編成、学習・進路指導、授業改善を推進し、生徒一人ひとりの着実な学力伸長を図ることによって進学実績を向上させる。</p> <p>&lt;数値目標&gt; 国公立大学合格60名(難関国公立10大学を含む) ※国公立大学合格者数 H27年度 58名 H28年度 43名 H29年度 51名 H30年度 47名 H31年度 54名 R2年度 40名 R3年度 60名(目標)</p>	<p>国公立大学合格者については、現役生が昨年の29名から49名とほぼ倍増した。近年、30名程度で推移してきているので生徒はよく努力したといえる。入学時点で非常に厳しい成績の学年であったが、生徒の特性を見極め、志望を維持する指導を行うことができた。過卒生については、共通テスト導入を控えて現役志向が強く、昨年のうちに私立大学などに入学したものが多かった。過卒生の合格者は11名から9名へと減少した。また、広島大学など難関大学へ現役合格した者もみられた。</p> <p>&lt;数値結果&gt; 国公立大学合格者数58名(現浪合わせて)。推薦型合格者13(4)名、総合型合格者5(3)名、一般入試合格者35(33)名(前期23(28)名、中後期8(5)名)( )は昨年度。 広島大学 1名 島根大学 7名 山口大学 1名 兵庫県立大学 1名 鳥取大学 11名 公立鳥取環境大学 10名 など</p>

### 3 実施事業

#### 【高等学校課事業】

##### ○土曜授業等実施事業

###### ・土曜自習室

→5月、6月、10月、11月の4回実施。計165名参加。

2月は新型コロナウイルス感染症対策で中止。

###### ・国公立大学・私立大学進学相談会「夢ナビライブ」

→秋にオンラインでの参加を企画したが、日程により中止。

##### ○高大連携事業

###### ・公立鳥取環境大学教員交流

→5月6日、ガイダンス（環境大学プロジェクト研究の紹介、探究活動を始めるにあたって）の講師として実施。10月21日、探究ゼミ中間発表指導助言者として実施。1月25日の最終発表は新型コロナウイルス感染症対策で中止。

##### ○キャリア教育充実事業キャリア塾

###### ・「ようこそ高校へ」版

→9月16日実施。鳥取大学生6名を1年生各クラスに迎えて講演会実施。

→9月14日実施。ひよこカンパニー取締役・小原良庸氏を講師に迎え、1年生全体へキャリア設計講演会を実施。

###### ・「教えて先輩」版

→6月5日、探究文科・探究理科類型生徒による企業家訪問を実施。

##### ○アクティブ・ラーニング推進のための講師派遣事業（『主体的・対話的で深い学び』を促進する授業改善の取組等）

→京都産業大学・佐藤賢一氏を講師に迎えて実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策として中止。代替として12月22日、本校・小林教諭による観点別評価の研修を行った。

##### ○生徒の思考力・判断力・表現力の強化のためのハイレベル講座

###### ・大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部助教・大山牧子氏を講師に迎え、オンライン録画で実施。

2年探究ゼミへの指導：2月25日録画 → 2月視聴

#### 【独自事業】

##### ○教員の授業力向上事業（学力向上に向けた授業改革の推進等）

→アクティブ・ラーニング推進のための講師派遣事業と同一。12月22日実施。

##### ○生徒の主体的学習者育成事業

###### ・探究コース・類型活性化プロジェクト

→探究類型2クラスを対象とし、「探究ゼミ」を7・8限に1年間を通して実施。16グループに分かれ、それぞれが決めたテーマについて研究を行い、実験やフィールドワークなどを実施しながら成果を発表。主体的な学習者としての成長と表現スキルの向上が見られる。また、大学入試へも活用。

###### ・鳥取大学体験実習

→探究類型生が鳥取大学（鳥取・米子）を訪問し、実際の大学の講義を受講したり実習に参加することを計画したが、本校での実施となった。大学での学びがどのようなものが経験することにより、大学進学への動機づけを強くするとともに、探究活動への参考とした。11月11日実施。

###### ・ブリッジBridge

→学年の枠を超え、生徒が縦のつながりを持ちながらお互いに学びあい、大学進学へ向けての動機づけを強めることを計画したが、日程が調整できず中止。来年度は実施したい。

##### ○キャリア設計充実事業

###### ・「目指せ難関大！」キャリアアップ推進プロジェクト

→学年の枠を超えて、難関大（国公立大）を目指す生徒たちをグルーピングし、進学への動機づけを強めることができた。また、都市部の高校生の学習状況や大学入試の仕組みなどについても学んだ。河合塾より講師を迎え、6月18日にオンラインで実施。

・「勉強合宿3年」

→宿泊が難しい状況にあったため、勉強会として実施。教員への質問をしながら3日間しっかりと自学に取り組むことができた。7月26日～28日、本校を会場に実施。

・赤本等の書籍購入

→生徒が受験勉強に使用する問題集等を購入し、生徒自習室に設置。多くの生徒が活用していた。

・ハイレベルセミナー（数学・英語）

→2年生希望者に対して発展的な問題演習に取り組んだ。数学は大原洋二氏、長谷川祐司氏を講師に18回実施した。英語は岸浩子氏を講師に16回実施した。生徒は意欲的に取り組んだ。

○八頭タワー充実事業（「八頭高ライフ」中学生体験等）

・「八頭高ライフ」中学生体験

→八頭郡内の中学2年生を八頭高に招き、模擬授業などを実施。令和4年1月20日実施予定であったが中止。

4 総合所見（成果・評価）

生徒には高い志望を掲げ、実現に向けて努力するように促している。様々な事業を通して大学進学への動機づけを強めることができた。入学時や途中経過においても決して高い成績の学年ではなかったが、進路指導部を中心として総合型・学校推薦型選抜への対応を行った結果、国公立大学の合格者はほぼ倍増した。また、探究学習の成果を学校推薦型や総合型選抜に活用することもできた。また、難関大を目指す生徒には志望を下げることなく受験に向かうよう促しており、成果を上げる生徒も出てきている。学年の枠を超えて生徒たちがつながることにより、難関大に挑戦する文化を定着させていきたい。

※枚数任意